

飲水思源

町長

松岡市郎

新春の贈り物などから学ぼう

新春早々、1月の中旬に出張から帰ると、机の上に郵便局のメール便で1冊の本が送られてきていた。開けてみると「文化資本論入門」という題名の本が入っていた。資生堂元会長、福原義春氏の秘書からである。著者は京都大学名誉教授の池上惇氏で、数年前に福原義春氏の紹介で本町を訪れ、取材をいただいた方である。

題名に「〇〇論」などと付くので、難しい本では…という先入観があったが、読み進めていくと「東川町」の名前が数度出てくる。「なるほど…、池上氏と福原氏は東川の写真文化等への取り組みを高く評価してくれていた」と来町時の懇談を思い浮かべながら、さらに読み進めた。

突然、本町のまちづくりの取り組みが前後15ページにわたって評価されているところが出てきた。驚きであった。最近「東川町」の名前が新聞の全国版やテレビ、雑誌などで取り上げられる機会が多いが、一般には何らかの予告のような連絡があるものである。ところが今回は突然で、「まちづくりの内容が過大評価では…」と自問自答する機会になった。

平成21年に文化庁長官から『芸術文化創造都市』として表彰していただいたことがある。全国の都市以外で表彰を受けるのは東川町が初めてだった。当時は「一体、だれが、いつ、どこで調査したものだろうか？」と不思議であった。

思い起こせば、その後銀座・資生堂パラーで福原会長からお誘いを受けて食事をごちそうになり、その時「ひょっとして福原さんの推薦では…」と思ったものだ（本人は明かしてくれないが…）。ご自身で上梓された「道しるべをさがして」（朝日新聞出版社刊）の中でも、東川町の写真甲子園などを紹介してくれている。以前、資生堂本社を訪問した折には「福原がいつも写真甲子園のお話をしていた」と映画化のための資金も支援いただいた。小さな町の取り組みが世界的なトップ企業のリーダー、主要大学の教授から評価を受けるといのは望外の喜びである。先人たちが播（ま）いた文化芸術の種が一步一歩育ってきている。文化は人と人をつなぎ、育む、といわれる。文化力を魅力に変える知力が、さらに今求められている。

北海道新幹線殺人事件 (一般書)

西村京太郎/著 KADOKAWA/刊



売れないミステリー作家、三浦に、北海道新幹線を題材としたミステリー小説の執筆依頼が舞い込んだ。三浦は、原稿を無事に書き上げ、開業当日東京発の北海道新幹線に乗り込んだ。そのグリーン車両内で小説と同様の殺人事件が起きてしまった。さらに、三浦の隣の席に乗車していた女性が東京の自宅で殺され…。小説と現実が入り混じった事件に十津川警部が挑む!

マイ・インターン (映画、DVD)

ワーナー・ブラザーズ・ホームエンタテインメント



主人公・ジュルズは、華やかなファッション業界で大成功を取めて会社を経営し、結婚してプライベートも充実。そんな彼女の会社にシニアインターン制度で70歳の老人、ベンが入社することになった。40歳も年上の部下に何かとイラつくジュルズ、しかしベンの心のこもった仕事ぶりと的確な助言をいつの間にか頼りにするようになって…。(121分)

貸し出し図書 ビデオ紹介

文化交流館
☎82-4245

★本、DVDの蔵書リクエストをお受けしています★
1人5冊まで14日間、ビデオは1人2本まで4日間

貸し出し検索

<http://www.lib-finder2.net/higashikawa/servlet/Index>



あやしの保健室1 あなたの心、くださいまし (絵本)

染谷果子/著 小峰書店/刊



ねたみ、怖がり、むかつき…。学校生活にあふれるお悩みも、保健室に行けば先生の特製アイテムでたちまち解決! ただし、そのアイテムには副作用があって、絶対にしてはいけないことがあるのです。保健室に駆け込む子どもたちと、ちょっと怪しい雰囲気をもった新任の養護教員、妖乃先生を描いた6つの物語。